

NPO法人の理事長が語る「シニア人材」の魅力とは

■「子育て世代とシニアの架け橋を目指す」
「NPO法人ゆるゆるmasuma」とは

先月号では、公益財団法人東京しごと財団の「東京しごとセンター（千代田区）」で、65歳以降のシニアを新たに採用する企業・団体の発掘に従事する高橋巖さんの業務内容「しごとチャレンジ65」を紹介しました。今月号では、そんな高橋さんに信頼を寄せ、積極的にシニア人材を採用する特定非営利活動法人ゆるゆるmasuma（杉並区）の理事長である小松崎明子さんに「シニア人材」の魅力を語っていただきました。



高橋巖さん(左)、小松崎明子さん(右)

ゆるゆるmasumaは、2005年に「ママたちの孤(子)育ての不安や悩みに寄り添いたい」との思いで小松崎さんが仲間と立ち上げた子育て支援のNPO法人です。2011年の東日本大震災を契機に、日常からの「地域の支え合い」が、災害時の孤立不安の解消にもつながることを体感し、今では、多世代の交流を意識しながら地域共生を目指して活動をしています。「子育て世代とシニアの架け橋」になることもその活動の1つで、例えば、子ども食堂の運営などで地域のシニアがイキイキと

「役割」を果たす姿に感動すら覚えたと言います。

■小松崎理事長と東京しごとセンターの高橋さんとの出会い

そんな架け橋となる場作りを進める小松崎さんは、以前よりシニア人材が持つ「周囲への気配り」や「細やかな動作」「社会に役立ちたいとの意欲」に着目し、機会があればシニア人材を職員として採用したいと考えていたそうです。

高橋さんから「しごとチャレンジ65」を紹介する電話を受けたのはそんな時期だったそうです。当手を振りかえって小松崎さんは、「電話口からも高橋さんの品性というか、気配りや配慮、人間性が滲み出ている、話を聞いてみよう」と瞬時に判断されました。実際に会ってみて、高橋さんの方も「ゆるゆるmasuma」の社会的意義や、小松崎さんのポジティブな考え方に強く惹かれ、「現場で活躍できる即戦力のシニア人材を紹介したい」との思いを強くしたそうです。

■小松崎理事長が語る「シニア人材」の魅力とは

2021年以降、数名のシニア人材を採用した小松崎さんは、ご自身が採用されたシニア人材の魅力をこのように語りま

す。「とても気さくに、フットワーク軽く、受付窓口の業務や館内清掃をこなしてもらっています。施設利用者にも積極的に声掛けをいただいで、世代交流の先頭に立ちたい」と。

今では、小松崎さんは「高橋さんから紹介される方なら間違いない」と全幅の信頼を寄せています。「シニア人材も、子育て親世代も、子どもたちも、そして私たちス タッフも、互いに学び合う関係を築いていきたい」と明るくポジティブに語っていただきました。

池口武志(いけぐち-たけし)

一般社団法人定年後研究所理事長
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。著書として「定年NEXT」「人生の頂点は定年後」がある。



一般社団法人定年後研究所
人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。